

2023年度

環境活動レポート

2023年10月～2024年9月

発行 2024年 12月25日

E P K

Ecology & people to kindness

株式会社 イーペック牛久

茨城県牛久市正直町 1375 番地

E-mail: epk-1215@bz01.plala.or.jp

環 境 方 針

〈基 本 理 念〉

私たち株式会社イーペック牛久は、建設発生木材等の再資源化の担い手として、資源循環型社会の形成に貢献します。併せて、事業活動を通じて投入、排出する環境負荷の一層の低減を図ります。

〈行 動 指 針〉

当社は、基本理念の実現に向け廃木材を破碎し木質チップ化することにより、『建設発生木材等の再資源化事業の継続的発展』と『事業活動のなかで環境保全に配慮して行動すること』を経営の最重要課題としてとらえ、次の行動指針を定めます。

1. 建設発生木材等の再資源化製品である木材チップの市場への安定供給に努め、資源循環型社会の形成に貢献します。
又、新たな環境政策課題である新エネルギーへの転換に貢献する為、バイオマス燃料の安定供給にチャレンジします。
この実現のための、経営における課題とチャンスとして次の事に取り組んでまいります。
 - ① 生産設備の突発故障による製造停止の防止
 - ② 総物質投入量の管理
2. 木材チップの製造の事業活動において、環境負荷を低減し、環境汚染を未然に防止する為、次の事に取り組んでまいります。
 - ①電力使用量の削減
 - ②化石燃料(主として軽油)使用量の削減上記①, ②の活動を通して二酸化炭素排出量の削減を図ります。
 - ③産業廃棄物排出ゼロベースの維持
 - ④水資源投入量の管理
3. エコアクション21の取組により、環境保全実績の継続的な改善を図ります。
4. 事業活動に於いて適用される『廃棄物処理法』をはじめ、環境法規制等を遵守します。
5. 環境保全関連の行政機関・団体などの環境保全施策に協力すると共に、地域社会における環境保全活動に対し積極的に参加し、社会貢献活動を推進します。
6. 環境教育、訓練の実施により、全ての構成員に環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。
7. 環境方針の公開等必要な情報の開示に努めます。

制定 2005 年 6 月 1 日

改訂 2010 年 12 月 1 日

改訂 2020 年 4 月 1 日

改訂 2023 年 4 月 1 日

株式会社イーペック牛久

新妻 章弘

1、組織の概要

(1) 事業所名及び代表者

株式会社イーペック牛久

代表取締役 新妻 章弘

(2) 所在地

茨城県牛久市正直町字守山 1375 番地

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	工場長	T E L 029-875-1215 F A X 029-875-1210
事務所	総務部部門長	同上
製造	製造部部門長	同上
保全	保全部部門長	同上

(4) 事業内容

木材チップ製造、産業廃棄物処理業（木くず破砕中間処理）

一般廃棄物処理業（木くず破砕処理）

産業廃棄物収集運搬業（収集車 5 台）

(5) 事業規模

活動規模	2021 年度	2022 年度	2023 年度
原材料投入量（中間処理量）	52,199 t	52,447 t	54,070 t
売上高	428 百万円	416 百万円	436 百万円
従業員数	18 人	17 人	17 人
工場床面積	1,550 m ²	1,550 m ²	1,550 m ²
敷地面積	19,000 m ²	19,000 m ²	19,000 m ²
産業廃棄物収集運搬業 積替え保管施設	428 m ² (保管上限 64.8 m ³)	428 m ² (保管上限 64.8 m ³)	428 m ² (保管上限 64.8 m ³)
積替え保管施設受け入れ量	1,006 t	1,237 t	1,123 t
搬入台数	264 台	314 台	329 台
搬出台数	148 台	160 台	142 台

注：原材料投入量（中間処理量）及び売上高は、各会計年度（10 月～9 月）の実績を、従業員数及び工場床面積は、各期末日現在の状況を示す

2、対象の範囲

(1) 事業活動：事業内容に同じ

(2) 対象事業所：本社工場（茨城県牛久市正直町字守山 1375 番地）

積替え保管施設（埼玉県八潮市大字西袋川西 767 番地 5）

(3) レポートの対象期間及び発効日：2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日

2024 年 12 月 20 日発行

《産業廃棄物処理業に係る情報公開》

(1) 組織の概要

ア、設立年月日：平成 14 年 1 月 25 日
 イ、資本金：800 万円
 ウ、売上高：436 百万円
 エ、組織図：別図 1

(2) 許可の内容

産業廃棄物処分業 茨城県

許可番号：0821084550
 許可年月日：令和 4 年 7 月 15 日 有効年月日：令和 11 年 4 月 21 日
 事業の範囲：木くず、金属くず 中間処分（破碎）

産業廃棄物収集運搬業 茨城県

許可番号：00801084550
 許可年月日：令和 4 年 7 月 15 日 有効年月日：令和 11 年 4 月 21 日
 事業の範囲：積替え保管を除く。廃プラスチック類（自動車等破碎物及び石綿含有産業廃棄物を除く。）
 紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、（自動車等破碎物を除く。）ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（自動車等破碎物及び石綿含有産業廃棄物を除く。）がれき類（石綿含有産業廃棄物を除く。）

産業廃棄物収集運搬業 千葉県

許可番号：01200084550
 許可年月日：令和 6 年 8 月 7 日 有効年月日：令和 13 年 7 月 2 日
 許可の範囲：積替え保管を除く。廃プラスチック類（自動車等破碎物を除く）、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず（自動車等破碎物を除く）、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（自動車等破碎物を除く）、がれき類、（これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。）
 ※「石綿含有産業廃棄物を含む」の記載のない種類については、石綿含有産業廃棄物を収集・運搬できない。

産業廃棄物収集運搬業 埼玉県

許可番号：01110084550
 許可年月日：令和 6 年 8 月 1 日 有効年月日：令和 13 年 6 月 26 日
 許可の範囲：積替え保管を含む。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず（がれき類を除く。）及び陶磁器くず、がれき、以上 7 種
 石綿含有産業廃棄物は除く。
 積替え保管できる産業廃棄物の種類
 廃プラスチック類（廃量に限る。）、紙くず（廃量に限る。）、木くず、繊維くず（廃量に限る。）以上 4 種類

《産業廃棄物処理業に係る情報公開》

産業廃棄物収集運搬業 東京都

許可番号 : 13-00-084550

許可年月日 : 令和 6 年 6 月 18 日 有効年月日 : 令和 13 年 6 月 17 日

許可の範囲 : 積替え保管を除く。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類、(以上 7 種類)

産業廃棄物収集運搬業 神奈川県

許可番号 : 01400084550

許可年月日 : 平成 30 年 9 月 9 日 有効年月日 : 令和 7 年 9 月 8 日

許可の範囲 : 積替え・保管を除く。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず・陶磁器くず、がれき類
※ 取扱う産業廃棄物は、特別管理産業廃棄物であるものを除く。

産業廃棄物収集運搬業 栃木県

許可番号 : 00900084550

許可年月日 : 令和 2 年 3 月 31 日 有効年月日 : 令和 9 年 3 月 30 日

許可の範囲 : 積替えを除く。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
※産業廃棄物の種類は、特別管理産業廃棄物であるものを除く。

産業廃棄物収集運搬業 群馬県

許可番号 : 01000084550

許可年月日 : 令和 2 年 11 月 12 日 有効年月日 : 令和 9 年 11 月 11 日

許可の範囲 : 積替え保管を除く。廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

《産業廃棄物処理業に係る情報公開》

(3) 施設の状況

施設の種類	処理能力	処理方式
破砕施設	120 t/日 (8時間)	高速回転による破砕
破砕施設	80 t/日 (8時間)	低速回転による破砕、その後高速回転による二次破砕

施設の種類	面積	保管上限
産業廃棄物収集運搬業 積替え保管施設	428.33 m ²	64.8 m ³

処理工程図 : 別図 2

(4) 保有車両（産業廃棄物収集運搬車両）

脱着装置付コンテナ専用車	最大積載量 11,600 k g	2 台
脱着装置付コンテナ専用車	最大積載量 11,700 k g	1 台
脱着装置付コンテナ専用車	最大積載量 3,750 k g	1 台
キャブオーバ	最大積載量 14,000 k g	1 台

(5) 収集運搬実績・処理実績・処理料金

収集運搬実績	:	2023 年 10 月～2024 年 9 月	4,198 t
処理実績	:	2023 年 10 月～2024 年 9 月	54,070 t
処理料金	:	8,000 円/t 程度	

(6) 事業計画の概要

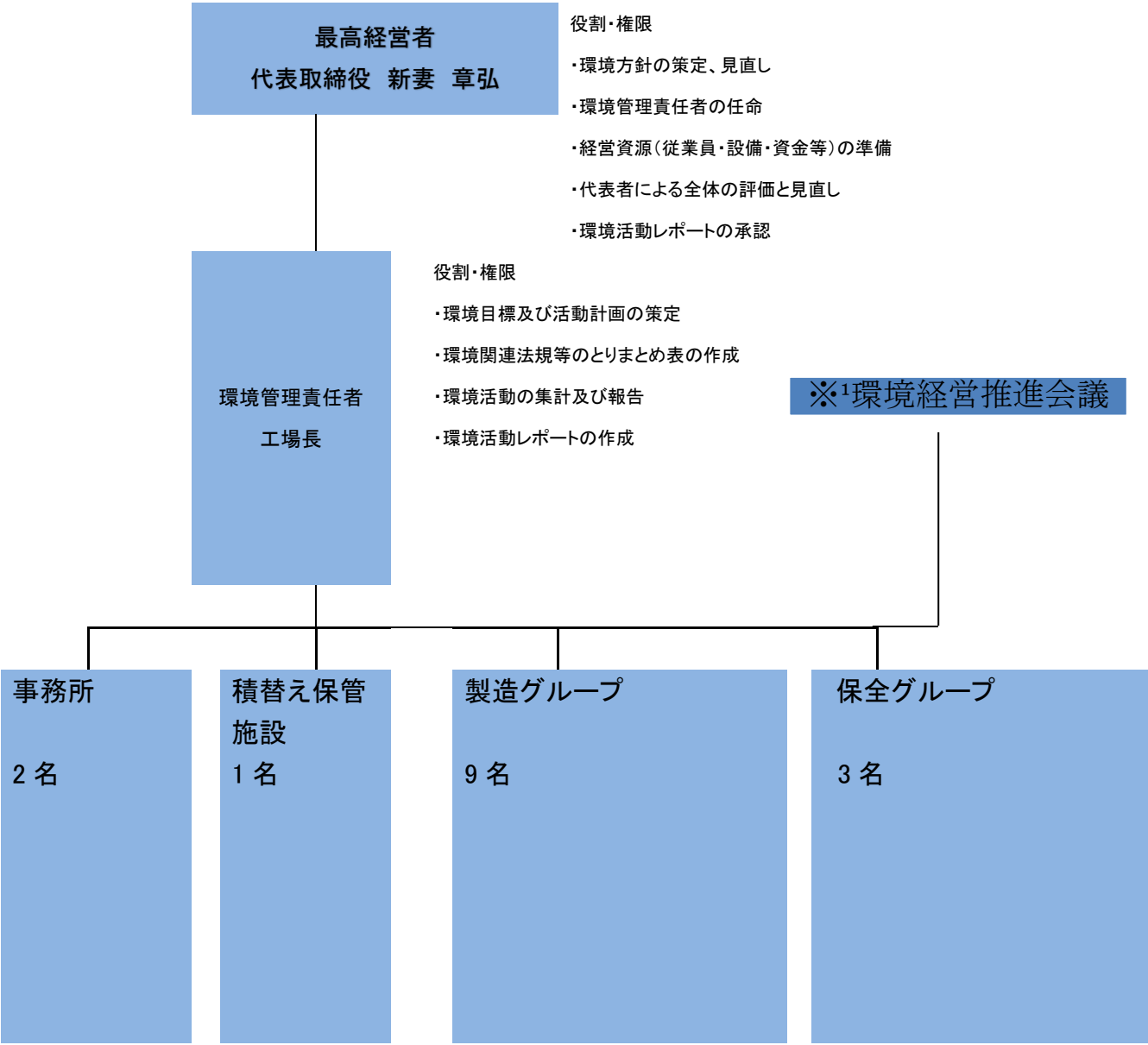
建設発生木材や生木等を収集、破砕（中間処理）のうえ木材チップを製造し、バイオマスボイラーの燃料、建材及び製紙の原料等としてリサイクル需要先へ供給することで、資源循環型社会の形成に貢献することを経営の最重要課題といたしております。

別図 1

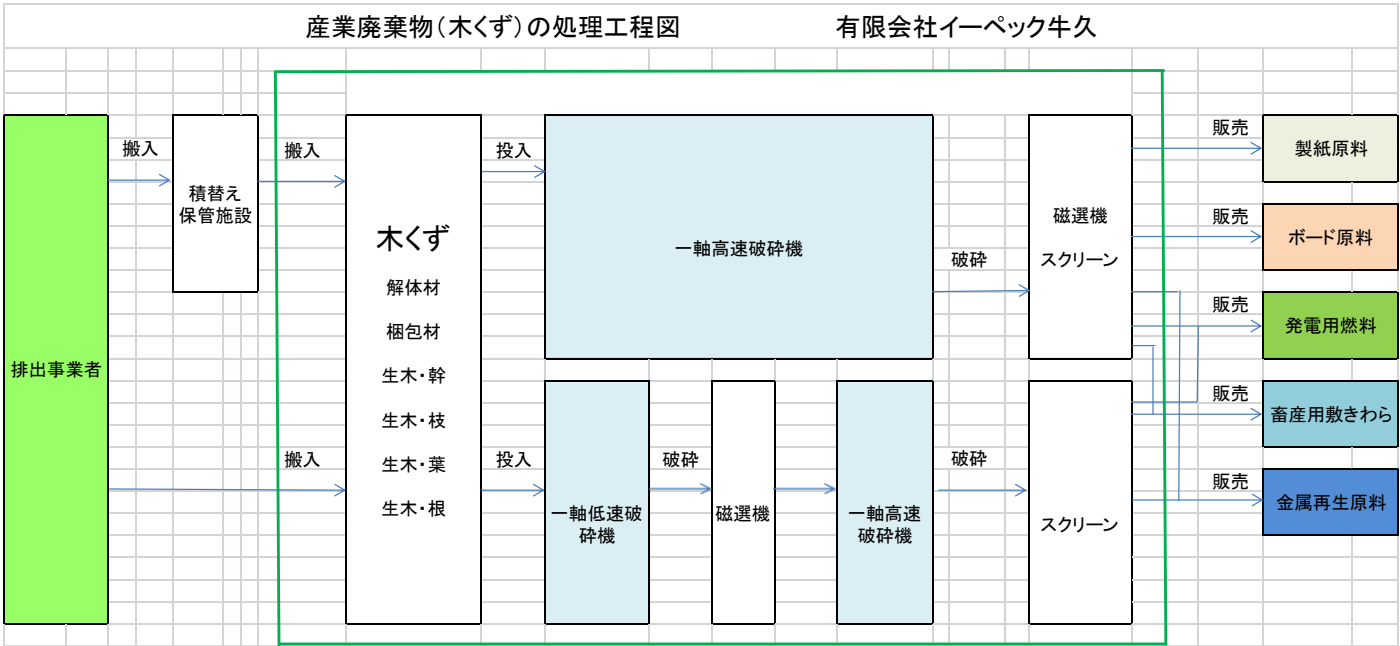
ea21 推進組織図

改訂 2024 年 1 月 1 日

総従業員数 17 人



※¹ 環境経営推進会議は必要に応じて工場長が招集し、構成メンバーは、最高経営者、環境管理責任者及び各部門長とする。



令和5年10月～令和6年9月			一連の処理の行程		株式会社イーペック牛久	
受け入れ	→	木くず 54,070t(100%)	→	破砕処理 54,070t (100%)	売却	A社・B社(製紙用原料として利用) 1,497t(2.8 %)
					売却	C社ボード用原料 11,730t(21.8%)
					売却	D社発電用燃料 4,520t(8.3%)
					売却	E社発電用燃料チップ販売商社 28,865t(53.3%)
					売却	F社畜産敷きわら用 6,991t(12.9%)
受入量 54,070t(100%)	保管量500t	持出量 54,070t(100%)	売却	G社金属再生用(木くずに付着し、搬入された金属) 467t(0.9%)		

3、環境目標とその実績

NO	環境目標 (注 1)	単位	2022 年度 基準年度	2023 年度 目標上段 実績下段	2024 年度目標 目標上段	2025 年度目標 (中期目標)
1	生産設備突 発故障の防 止	件	0	0	0	0
2	予 防 保 全 内 容 及 び 件 数 の 記 録	件	57	42		
3	原材料投入 量の管理 ※2019 年度 からは原材 料を再資源 化した種類、 数量、割合を 記載	t %	投入量 52,447 t 燃料用 34,430 t 58.0% ボード用 11,084 t 21.1% 製紙用 1,392 t 2.7% 堆肥用 9,082 t 17.3% 金属再生用 459 t 0.9%	投入量 54,070 t 燃料用 33,385 t 61.7% ボード用 11,730 t 21.7% 製紙用 1,497 t 2.8% 堆肥用 6,991 t 12.9% 金属再生用 467 t 0.9%		
4	電力使用量 の削減(原単 位あたり)	k Wh/t	11.35 k Wh/t	(△1%) 11.23 k Wh/t 12.57 k Wh/t	11.12 k Wh/t	11.00 k Wh/t
5	軽油使用量 の削減(重 機)	L/h (稼働時 間)	使用量 169,450ℓ 稼働時間 13,722 時間 12.3L/h	使用量 156,280ℓ 稼働時間 13,752 時間 (△1%) 12.1L/h 11.3L/h	12.0L/h	11.9L/h
6	軽油使用量 の削減(収集 運搬車両)	km/L (走行距 離)	使用量 53,997ℓ 走行距離 128,271 km 2.37 km/L	使用量 58,939ℓ 走行距離 145,687 km (△1%) 2.39 km/L 2.47 km/L	2.41 km/L	2.44 km/L
7	軽油使用量 の削減(構内 車 両、掃 除 機、溶 接 機 等)	L/日 (稼働日 数)	使用量 18,296L 稼働日数 300 日 60.9ℓ/日	使用量 17,809L 稼働日数 301 日 (△1%) 60.2L/日 59.1L/日	59.6ℓ/日	59.0ℓ/日
8	二酸化炭素総排出量 電力に起因する二酸化炭素 排出量 軽油に起因する二酸化炭素 排出量 (参考)		二酸化炭素総排出量 911,411 Kg-CO ₂ 電力に起因する二酸化炭素排 出量 284,783Kg-CO ₂ 軽油に起因する二酸化炭素排 出量 623,696 Kg-CO ₂	二酸化炭素総排出量 896,523Kg-CO ₂ 電力に起因する二酸化炭素排 出量 291,305 Kg-CO ₂ 軽油に起因する二酸化炭素排 出量 601,212Kg-CO ₂		
	二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減 (電力)	Kg-CO ₂ /t	二酸化炭素排出量 284,783Kg-CO ₂ 5.42K g -CO ₂ /t	二酸化炭素排出量 291,305Kg-CO ₂ (△1%) 5.36K g -CO ₂ /t 5.38K g -CO ₂ /t	5.31K g -CO ₂ /t	5.25K g -CO ₂ /t
	二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減 (重機)	Kg-CO ₂ /h	二酸化炭素排出量 623,696K g -CO ₂ 二酸化炭素排出量に占める 割合 70% 稼働時間 13,722 時間 31.8K g -CO ₂ /h	二酸化炭素排出量 601,212K g -CO ₂ 二酸化炭素排出量に占める 割合 67% 稼働時間 13,752 時間 (△1%) 31.4K g -CO ₂ /h 30.6K g -CO ₂ /h	31.1K g -CO ₂ /h	30.8K g -CO ₂ /h

8	二酸化炭素排出量の削減 (収集運搬車両)	Kg-CO ₂ /km	二酸化炭素排出量 623,696K g・CO ₂ 二酸化炭素排出量に占める割合 22.4% 走行距離 128,271 km 1.06K g・CO ₂ /km	二酸化炭素排出量 601,212K g・CO ₂ 二酸化炭素排出量に占める割合 25% 走行距離 145,687 km (△1%) 1.04K g・CO ₂ /km 1.03K g・CO ₂ /km	(△2%) 1.03K g・CO ₂ /km	(△3%) 1.02K g・CO ₂ /km
	二酸化炭素排出量の削減 (構内車両、掃除機、溶接機)	Kg-CO ₂ /日	二酸化炭素排出量 623,696K g・CO ₂ 二酸化炭素排出量に占める割合 7.6% 稼働日数 300 日 158K g・CO ₂ /日	二酸化炭素排出量 601,212K g・CO ₂ 二酸化炭素排出量に占める割合 8% 稼働日数 301 日 (△1%) 156K g・CO ₂ /日 159K g・CO ₂ /日	(△2%) 154K g・CO ₂ /日	(△3%) 153K g・CO ₂ /日
9	水資源投入量の管理	m ³	2,438	3,908 m ³	(2023 年度実績△2%) 3,829 m ³	(2023 年度実績△3%) 3,790 m ³
10	産業廃棄物排出ゼロの維持 (排油を除く)	t	0	0 0	0	0

(注 1) 環境目標は、2022 年度実績値を基準とする 2023 年度～2025 年度までの 3 年間の中期目標です。

(注 2) ()内の数字は、基準年度からの削減目標を示します。

(注 3) 弊社では化学物質を使用しておりませんので、環境目標に化学物質削減を掲げておりません。

(注 4) 二酸化炭素排出係数は令和 5 年度大和ハウス工業 (株) の調整後排出係数 0.000431 を使用した。

4、主要な環境活動計画の内容と次年度の取り組み

NO	環境目標及び環境活動計画	単位	目標	実績 達成率	評価及び次年度の取り組み
1	生産設備突発事故の防止/予防・改良保全の実施 ※日常点検と異常時即予防保全の実施 ※保全作業予定の立案 ※予防保全の実施記録	故障 件数	0 件	0 件 100%	評価 ○ 設備劣化の早い段階で修繕を進め突発故障を防ぐことが出来た。 次年度も突発故障 0 件を目標に取り組む。
2	※日常点検と異常時即予防保全の実施 ※保全作業予定の立案 ※予防保全の実施内容・件数の記録	件	—	—	評価 ○ 今年度も予防保全に力を入れ突発故障を未然に防ぐことが出来た。 次年度も同様に取り組む。
3	原材料の投入量及び、再資源化した種類・数量・割合の記録	t %	再資源化 後の種類、 数量割合 の管理	投入量 54,070 t 燃料用 33,385 t (61%) ボード用 11,730 t (22%) 製紙用 1,392 t (3%) 堆肥用 9,082 t (13%) 金属再生用 459 t (1%)	評価 ○ 昨年度と同量程度の原材料を確保でき、製品チップの安定供給をできた。 次年度も同様に取り組む。
4	電力使用量の削減 ※不使用設備電源OFFの定着 ※破碎機の連続運転による始動時に掛かる高負荷の軽減 ※屋外夜間照明の節約	kWh/t	11.23 kWh/t	12.57 k kWh/t	評価 × 達成率 89% 破碎機投入前に前処理を行い負荷の低減を図ったが思うような結果が得られなかった。 次年度は破碎機のハンマーが摩耗して製品チップのサイズが大きくなり始めた際は早めにハンマーを交換する。
5	軽油使用量の削減（重機） ※重機等アイドリングストップの励行 ※燃費の良い重機をメインで使用する ※重機ごとの燃料使用量の記録	ℓ/h	12.1ℓ/h	11.5ℓ/h	評価 ○ 達成率 107% 日常活動の継続と重機の新車導入による省燃費化で目標達成できた。 次年度も同様に取り組む。
6	軽油使用量の削減（収集運搬車両） ※アイドリングストップの励行 ※エコ運転の実施 ※効率的なルート設定	km/L	2.39 km/L	2.45 km/L	評価 ○ 達成率 102% 日常活動の継続により目標達成出来た。 次年度も同様に取り組む。

評価欄：符号◎は目標大幅達成、○は目標達成、△は改善されているが更に徹底を要する、
×は目標未達成を表す。

7	軽油使用量の削減 (構内車両、掃除機、溶接機等) ※アイドリングストップの励行 ※定期メンテナンスの実施 ※タイヤ空気圧の定期点検	L/h	60.20/h	59.1L/h	評価 ○ 達成率 103% 次年度も日常活動を継続し更に削減出来るよう努める。
8	二酸化炭素排出量の削減 (電力) 二酸化炭素総量実績(参考)	Kg-CO ₂ /t	5.36 Kg-CO ₂ /t	5.38 Kg-CO ₂ /t	評価 × 達成率 99% NO、4 と同様
	二酸化炭素排出量の削減 (重機) 二酸化炭素	Kg-CO ₂ /h	31.4 Kg-CO ₂ /h	30.6 Kg-CO ₂ /h	評価 ○ 達成率 103% NO、5 と同様
	二酸化炭素排出量の削減 (収集運搬車両)	Kg-CO ₂ /km	1.06 Kg-CO ₂ /km	1.03 Kg-CO ₂ /km	評価 ○ 達成率 102% NO 6 と同様
	二酸化炭素排出量の削減 (構内車両、掃除機、溶接機等)	Kg-CO ₂ /日	156 Kg-CO ₂ /日	159 Kg-CO ₂ /日	評価 × 達成率 98% NO 7 と同様
9	水資源の投入管理 ※不使用時の節水の徹底 ※揚げ水量の記録	m ³	必要最低限 の使用量と し投入量を 管理する	3,908 m ³	2023 年度の実績を基準とし、年 1%ずつ削減する。
10	産業廃棄物排出ゼロベースの維持 ※材料の荷卸し時木くず以外の異物の 持ち帰りの徹底	t	0	0	評価 ○ 達成率 100% 搬入業者様の協力があり目標達成できた。

評価欄：符号◎は目標大幅達成、○は目標達成、△は改善されているが更に徹底を要する、
×は目標未達成を表す。

5、環境活動計画の取り組み結果、次年度の取り組み内容

(1) 環境活動計画の取り組み結果とその評価及び次年度の取り組み

2023 年度の環境目標及び環境活動計画に基づく取り組み結果と、その評価及び次年度の取り組みは、上表評価欄のとおりである。

7、環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

(1) 遵守状況の確認及び評価の結果

関連する法規制及び遵守状況。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動）	遵守状況
騒音規制法	破碎機	○
浄化槽法	浄化槽	○
廃棄物処理法	産業廃棄物処理施設	○
消防法	指定可燃物の保管・消防設備の維持管理	○

(2) 違反、訴訟等の有無

環境関連法規の違反、訴訟等はありません。なお、関係当局などからの違反等の指摘は、過去 3 年間ありません。

8、代表者による全体評価と見直しの結果

環境方針に掲げた木質チップの安定供給に関し、原材料の確保を始め生産設備の突発故障 0 件を含め支障なく実施出来たことを高く評価します。

その中で主要エネルギーである軽油使用量の環境目標達成は、経営課題を 1 つクリア出来たと感じます。

もう一つの主要エネルギー電力については達成率 89%と未達成となりましたが、出来ることを試しながら業務に従事することで一人一人の経験値を上げ生産性の向上に繋がる大切な取り組みと考えます。

使用量の大幅な増加が見られた水資源に関しては、木質チップ納入先での粉塵予防や、出入りする協力会社にトラックに付いた埃を流して出る等のお願いもあり余儀ないものと考えます。但し過剰に増加しないよう管理し、環境目標を今年度実績を基準に年 1%ずつの向上を目標と設定します。

これからも再資源化に伴う廃棄物の減少に尽力し、循環型社会の形成に努めて参ります。

株式会社イーペック牛久

代表取締役 新妻 章弘